

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	公共経済学 (Economics of the Public Sector)		
ナンバリングコード	E30409	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 応用レベル 経済学
単位数	4	配当学年 / 開講期	3年 / 前期
必修・選択区分	選択: 経営経済学部 コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E017601	クラス名	-
担当教員名	森田 和子		
履修上の注意、履修条件	財政学をすでに履修している方が理解しやすい講義内容ですが、わからないところを調べるなど努力次第で十分受講できます。		
教科書	教科書は使用しません。毎回、講義ノートのプリントを配布しますので重要事項を書き込んでください。		
参考文献及び指定図書	スティグリッツ「公共経済学(上)(下)」(マクロウヒル)、加藤寛・浜田文雅編「公共経済学の基礎」(有斐閣)、谷口洋志著「公共経済学」(創成社) 日本経済新聞等		
関連科目	経済学入門、財政学。		

○基本情報							
授業の目的	私たちの身近にある公共部門のさまざまな活動を理解することを目標とします。期末試験までには各自でテーマを決めて小論文が書けることを目指します。						
授業の概要	公共部門の活動を特に、社会資本、租税、民間経済との比較の3つの側面からとらえます。財政学ですでに学んだことを定着させ、発展・応用した内容となっています。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「該当なし」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	公共経済学に関心を持ち、積極的に授業に出席するとともに、自ら調べて体系的に学んでいくこと。	10点	10点	10点
【知識・理解】	講義で学んだことを基礎に、大分県・大分市を含めた地域の課題を理解していく。	5点	5点	
【技能・表現・コミュニケーション】	基本用語や経済学の分析方法をもちいてテーマにそった小論文がまとめられる。	5点	5点	10点
【思考・判断・創造】	これからの社会で公共部門の果たす役割、特に地域経済との関連で公共部門の活動の重要性を理解できる。	20点	10点	10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
公共経済学全体への理解を深め、自ら設定したテーマで小論文をまとめることができる。 S評価: 講義内容全体を深く理解し、自ら設定したテーマで具体的な内容の論文をまとめることができる。 A評価: 講義内容全体をほぼ理解し、自ら設定したテーマに沿って調べた内容を論文形式にまとめることができる。 B評価: 講義内容全体をおおむね理解し、自ら設定したテーマに沿って内容を論述することができる。 C評価: 講義内容の一定範囲を理解し、自ら設定したテーマについて概要を論述することができる。 課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	公共経済学 (Economics of the Public Sector) 森田 和子	授業コード	E017601
学修内容				
1.				
第1回 イントロダクション(1) 政府と市場。現代のほとんどの国は、市場を通じて行われる私的部門の経済活動に加えて、公共部門の経済活動が高い比重をしめるようになっている。第1回の講義では、なぜ私的部門の経済活動だけにまかせるのではなく、政府をはじめとする公共部門が必要とされるのかを考える。				
予習	講義のシラバスに目を通しておく。力のある人は「公共経済学」の教科書を手に取って読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
2.				
第2回 イントロダクション(2) 政府とは何か(1) 政府は市場で活動する企業といかなる点が異なるのかをそれぞれの行動動機の比較を通じて考える。政府の役割としては、市場にまかせては行われぬが、公共の利益のためには必要な活動があること、また、市場の活動がもたらす問題点の補完、規制の必要があることをみていく。				
予習	経済学入門で学んだ企業の行動動機とは、そして市場の失敗とは何かについて確認しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
3.				
第3回 イントロダクション(3) 公共経済学成立の背景。公共経済学は経済学の中では比較的新しい分野である。「公共経済学」という語が初めてつかわれたのはいつごろか、また、公共経済学という学問分野が確立したといえる時期はいつごろかをみていく。さらに、公共経済学を財政学と比較し、対象領域やアプローチの違いを検討する。				
予習	教科書の公共経済学成立の時期の章を読んでおく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
4.				
第4回 イントロダクション(4) 政府とは何か(2) 政府の位置づけの変化をアダム・スミスの夜警国家論、ケインズの不況克服のための財政政策論、マズグレイブによる現代の政府の役割の3つからみていく。資源配分、所得の再分配、経済の安定化のために政府はどのようなことをしているのか。				
予習	アダム・スミス、ケインズについて調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
5.				
第5回 イントロダクション(5) 「大きな政府」か「小さな政府」か 政府の規模が大きい方が良いか、小さい方が良いかはしばしば議論になる。「大きな政府論」と「小さな政府論」の登場の背景とそれぞれの良い点、問題点について考える。				
予習	教科書の政府活動の規模についての章を読んでおく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
6.				
第6回 イントロダクション(6) 公共部門(政府)が存在する根拠 はじめに、政府の介入なしに理想的に機能する完全競争市場の条件を復習する。ただし競争市場の所得配分は平等を保障するものではないことを確認する。つづけて市場が失敗する5つのケースを見ていく。最後に自由主義社会において政府が温情主義的役割をはたすことの是非を検討する。第6回の講義終了後、レポート課題提示。「現代社会で政府はいかなる役割をはたしているのか、市場メカニズムと対比して論述せよ」(5h)				
予習	完全競争市場の条件と市場の失敗について調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
7.				
第7回 社会資本(1) 経済・産業を発展させるために必要不可欠な社会資本(インフラストラクチャ)について学ぶ。社会資本にはどのようなものがあるのか、社会資本の建設と産業・地域経済の発展との関係を考える。				
予習	教科書「公共経済学」の第8章を読んでおく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
8.				
第8回 社会資本(2) 社会資本整備のための公共投資について学ぶ。公共投資を産業基盤投資・生活環境投資・農林水産投資・国土保全投資・その他に分類し、日本の社会資本整備の重点がどのようなところにおかれて進められたかをみていく。また、国内総生産に占める公共投資の割合(対GDP比率)から、公共投資の規模の推移をみていく。				
予習	「公共経済学」第8章を読んでおく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	公共経済学 (Economics of the Public Sector) 森田 和子	授業コード	E017601
学修内容				
9.				
第9回 社会資本(3) 日本経済の動きと公共投資政策 日本の公共投資政策がどのようなことに重点をおいて進められてきたかを、高度成長期、安定成長期、バブル経済期とその後、そして2000年代以降の4つの時期にわけてみていく。日本経済が直面している課題と今後の活性化のための取り組みを考える。				
予習	「公共経済学」第8章を読んでわからない言葉をメモしておく。			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間
10.				
第10回 社会資本(4) 社会資本の資金調達 社会資本を供給する主体である政府(国・地方自治体)、公的企業、独立行政法人の存在と社会資本整備のための資金がいかなる形で調達されているのかを考察する。事業ごとの特別会計で管理されているもの、目的税による投資、料金・使用料収入などさまざまな資金調達方法を知る。				
予習	「公共経済学」第8章を読んでわからない言葉をメモしておく。			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間
11.				
第11回 社会資本(5) 事例研究 新幹線の開業効果 交通網の発展は地域経済を活性化させる大きな力があると期待されている。そこで日本ではこれまで全国をむすぶ新幹線建設が進められてきた。事例研究としてまず、新幹線の開業効果を取り上げる。北陸新幹線がはじめて長野まで開業したとき、地域経済にいかなる変化をもたらしたかを資料をもとにみていく。				
予習	日本の新幹線の路線、区間、開業時期などを調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間
12.				
第12回 社会資本(6) 事例研究 道路をめぐる動き 現在、道路は物流網として重要な役割を果している。1960年代はそれまでの鉄道輸送中心から自動車での輸送に大きく物流環境が変化した時期であり、高速道路建設が全国で進められた。今回は道路整備の費用と財源を中心に、道路特定財源とその廃止、有料道路を無料にしたときの効果などについて学ぶ。				
予習	道路特定財源について調べてみる。全国の高速道路網を確認する。			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間
13.				
第13回 社会資本(7) 事例研究 地方の空港の課題 九州各県の空港の利用者数、収支の資料をもとに空港の経営策について考える。空港がつくられても利用者が伸びないことは空港の経営を悪化させる。これを改善するために現在多くの空港が模索している方法が空港の民営化である。空の玄関口である空港がいかにして利用者を伸ばし、地域の発展につながるのかを考える。レポート課題:「社会資本と地域経済の関係」興味のある社会資本1つを取り上げ、地域の経済との関係でそれがどのような役割を果しているかをレポート用紙1枚以上にまとめる。提出締切は、第20回				
予習	九州には現在いくつ空港があるのか調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間
14.				
第14回 経済分析 今回は公共財の利用と料金についての経済分析を勉強する。公共財は共同消費されるが、料金を課すと利用が減る部分があるのは私的財と同様である。そこで橋を例にすると、料金制は渋滞の解消には役立つが、つくられた橋のキャパシティが十分大きいとき(渋滞が起こらないとき)には利用の減少は厚生上の損失となる。このことを需要曲線を用いた図解で説明する。				
予習	経済学入門などで学んだ需要曲線・供給曲線を復習しておく。			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間
15.				
第15回 租税と公債(1) 入門 政府にはいる収入として租税と公債がある。第15回は財政学の復習と未履修の人のために税を払う根拠は何か、租税と公債のちがいを学ぶ。				
予習	財政学をすでに履修した学生は租税と公債の章の復習、未履修の場合は公債とはなにかを調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間
16.				
第16回 租税と公債(2) 税の種類、予算、税収の大きさ 税は国税か地方税かに分類され、多くの税は普通税(一般税)として予算編成後に何につかうか(用途)が決められる。このほかに目的税にどのようなものがあるか、日本の財政年度、予算の種類、税収の大きさと経済情勢の関係について学ぶ。				
予習	財政学をすでに履修した学生は租税と公債の章の復習、未履修の場合は普通税と目的税のちがいを調べて			約2時間
復習	講義ノートを整理し、基礎事項を整理する。			約2時間

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	公共経済学 (Economics of the Public Sector) 森田 和子	授業コード	E017601
学修内容				
17. 第17回 租税と公債(3) 租税の経済分析 第17回は租税についての理論的アプローチを学ぶ。経済分析の基本である需要曲線と供給曲線をつかって、従量税で課税された場合と従価税で課税された場合の分析を行う。				
予習	従量税とは何か、従価税とは何かについて調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
18. 第18回 租税と公債(4) 租税の経済効果① 第18回は租税が消費にあたえる効果を学ぶ。課税が価格に転嫁されて価格が上昇するとすると、消費者は消費を大きく減らすか、それとも減らさないかを、生活必需品と奢侈品(しゃしひん)のケースにわけて図解で説明する。さらに課税の目的が、税収を確保するだけでなく、社会的のぞましき(公共目的)の実現にもつながっていることを学ぶ。				
予習	経済学入門で学んだ需要の価格弾力性について復習しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
19. 第19回 租税と公債(5) 租税の経済効果② 第19回は所得税が労働供給にあたえる影響について学ぶ。後方に屈曲している労働供給曲線と課税がもたらす所得効果、代替効果の概念を学ぶ。次に、ラフファー曲線によって政府の税収が最大となる所得税率はどこかを検討する。				
予習	所得効果と代替効果について調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
20. 第20回 租税と公債(5) 最近の所得税・法人税・消費税 第20回は最近の租税と公債の現状について学ぶ。税制改正や税率の見直しの方向、税収見通しや新規国債発行額などについて知る。第20回の講義終了後が、第13回で提示したレポートの提出締切です。				
予習	最近の財政関連記事を読んでおく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
21. 第21回 民間の経済活動と政府 規制(1) 自由な経済活動に政府はさまざまな規制を行っている。規制はなぜ必要なのか。どのようなことに規制をしているのか。そしてもし規制がなかったら、どのようなことがおこりそうかを考える。				
予習	公共経済学の規制に関する章を読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
22. 第22回 民間の経済活動と政府 規制(2) 規制の種類と規制政策の根拠について学ぶ。規制は、社会的規制と経済的規制に大別され、また質的規制と量的規制に区別される。規制政策の根拠は、過当競争とその弊害、および市場では過小(または過大)にしか供給されない財の存在があげられる。				
予習	公共経済学の規制に関する章を読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
23. 第23回 民間の経済活動と政府 規制改革(1) 政府の規制をなくすことができない領域は存在しつづける。規制緩和は規制を撤廃することではない。また、最近規制が強化された分野もある。規制改革のねらいは、経済の成長、競争力を高めることにある。				
予習	公共経済学の教科書から、規制改革に関する章を読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間
24. 第24回 民間の経済活動と政府 規制改革(2) 日本のこれまでの規制改革について学ぶ。1980年代後半から規制緩和が体系的・本格的に審議・検討されるようになった。さらにバブル経済後から現在まで日本経済の動きとともに、規制も「経済的規制」から「社会的規制」へとウエイト・シフトしたことをみていく。				
予習	戦後の日本経済の動きを復習しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、基礎事項を整理する。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	公共経済学 (Economics of the Public Sector) 森田 和子	授業コード	E017601
学修内容				
25. 第25回 公共部門の民営化(1) 1980年代後半より公共性が高い事業が相次いで民営化された。この講義では、民営化の経済的側面を学ぶ。第25回は日本国有鉄道の分割民営化について。日本の鉄道はそれまで、私鉄を除いて国の事業だった。これが分割され民営化されなければならなかった理由を学ぶ。他の輸送手段との競争激化、赤字路線の存在、民営化することで可能となる事業の効率化、多角化が主な内容である。				
予習	日本国有鉄道がJRになるまでについて調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、内容を整理する。			約2時間
26. 第26回 公共部門の民営化(2) 日本専売公社の民営化 1949年の発足以来、日本ではたばこと塩の専売が行われてきた。専売は安い外国産との競争から生産者を守り、補助金・奨励金が払われてきた。民営化されることでどのような意義があったのかについて学ぶ。				
予習	日本専売公社について調べてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、内容を整理する。			約2時間
27. 第27回 公共部門の民営化(3) 電信電話公社(電電公社)の民営化 日本の電気通信事業は、国営事業として国が独占してきた。これが1985年に民営化され、多数の事業者が参入することになる。その後、価格競争をへて寡占化が進む。消費者の利益と今後の通信市場の自由化についてまでを考える。				
予習	経済用語である「独占」「寡占(かせん)」「参入」の意味を調べておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、内容を整理する。			約2時間
28. 第28回 公共部門の民営化(4) 郵政民営化・空港の民営化 郵便事業は電気通信事業とならんで国が独占してきた。郵便は全国一律料金で安く通信できる手段だった。しかし、通信手段の多様化により郵便事業は赤字となる。一方、空港については利用者が伸び悩む空港があるため、施設の所有は国に残しながら運営に民間のノウハウを導入し、利用者増と地域の活性化につなげようとしている。				
予習	郵政民営化、空港の民営化とはどのようなことか考えてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、内容を整理する。			約2時間
29. 第29回 事例研究 社会資本整備の効果と費用 高速道路・日本の有料道路の建設・管理は、1956年設立の日本道路公団が当たってきた。これが2005年までに分割民営化され、現在は6つの高速道路株式会社になっている。民営化後の保有と管理の関係と今後の高速道路改修の費用について学ぶ。				
予習	全国的高速道路網と高速道路がなぜ有料なのかを調べ、考えてみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、内容を整理する。			約2時間
30. 第30回 全体のまとめ この講義で学んだ公共経済学の範囲を復習する。そして社会資本・租税・規制と規制改革・民営化の中から興味のある領域1つを選び、各自でテーマを設定して小論文を書くための基本的な方法を学ぶ。				
予習	これまでの講義ノートのプリントに目を通し、論述で書きたいテーマを考えておく。			約2時間
復習	論文作成の基本的な方法を確認する。			約2時間
31. 期末試験 試験時間60分、自筆の講義ノートのプリントおよび授業で配ったプリントのみ持ち込み許可で、各章の基本問題と講義の範囲内から各自で設定したテーマの論述1題を解答する。				
予習	プリントの見直しと、各自で調べたことも含めた論述問題の下書きを作成しておく。			約2時間
復習	解答の自己採点と不明なところの見直しをして、今後の勉強に役立てる。			約2時間
32.				
予習				
復習				